

少子高齢社会における世代間交流の意義と課題

—— その②：幼老合築型施設‘みどの福祉会’のアンケート調査を通して ——

下村 美保・下村 一彦

はじめに

前稿¹⁾では、まず世代間交流が求められる背景とその効果を整理した。その上で、様々な効果がある高齢者と子どもとの交流を促進するために注目されている合築型施設の事例として、‘みどの福祉会’を取り上げ、保育園と高齢者デイサービスセンターの交流の現状を分析し、課題を明らかにした。すなわち、‘みどの福祉会’では、合築施設特有の自然発生的な交流もあり、幼児と高齢者の双方に一定の肯定的な影響が見られる反面、当初は行われていた計画的な日常交流活動の休止、保育園行事での高齢者参加プログラムの削減など、意図的な交流は減少傾向にある。その背景には、施設間での主な活動の時間を調整することの困難さ、3歳未満児の増加への対応などもあるが、保護者の交流活動への理解不足、職員の認識・連携不足も影響していると考えられた。

合築という環境面でのメリットを十分に活用するためにも、交流計画等のソフト面での改善策を探る必要がある。そこでは、保育園の保護者、デイサービス利用の高齢者、両施設の職員らの期待・要望を汲み取りつつ、不安や負担を解消しなければならない。そのために本稿では、当事者・関係者が世代間交流をどのように捉えているのかをアンケート調査を通して明らかにし、今後の交流計画の方向性を示すことを目的とした²⁾。

1. アンケート調査の概要

【参考資料】に挙げた対象者毎の3種類のアンケートを施設長らと検討・作成し、保育者や介護職員の協力の下、2008年4月に配布した。なお、回収には筆者宛の返信用封筒を用意し、2008年4月末日までの投函を求めた。担任保育者や担当介護職員による回収の方が高い回収率を見込めるが、施設を評価する趣旨のアンケート項目もあることから、率直な記入を求めて郵送での回収を行った。結果として、保育園児の保護者に関しては、70名に配布して39名（56%）、デイサービス利用者（利用者が記入できない場合はその家族）に関しては、50名に配布して23名（46%）、管理職以外の職員に関しては、40名に配布して20名（50%）から回答を得た。次章では、得られた回答を対象者毎に分析する。

2. アンケート結果の分析

2-1. 保護者の意識

保護者へのアンケートではまず、交流への関心度を測る質問を通して、保護者の高い期待が伺える。

【表1：質問（4）の結果】に示したように、保育園選択時に高齢者との交流が理由となった保護者は39名中3名と僅かで、保護者の関心は低かったとい

える。しかし、残りの36名の保護者の内、11名が自由記述において、「年長者に対して、尊敬とやさしい心で接する事のできる子になってほしい（0歳児保護者）」や、「昔ながらの遊びや知恵など、教えてもらえたら嬉しい（保育期間1年未満の3歳児保護者）」等のように、交流に肯定的な記述をし、期待を寄せている。加えて、【表2：質問（6）の結果】に示したように、高齢者との交流の子どもへの影響について、36名（92%：複数回答可のためのべ数は56名）の保護者が肯定的

【表1】保育園選択時に高齢者との交流が理由となったか

1. 理由となった	3人
2. 理由とならなかった	25人
3. どちらともいえない	4人
4. 交流を知らなかった	7人

【表2】高齢者との交流による影響

1. 年長者を敬う態度が身につく	28人
2. 昔の話や遊びの伝承	28人
3. その他	2人
4. 良い影響は期待できない	1人

な影響があると答え、「高齢者の日常を知り、子どもながらも、何かをしてあげるべきかを考えられる様になってきたように思う（保育期間4年以上5歳児保護者）」と、交流の成果を実感している保護者もいる。

ただし、交流が保育園選択の「理由とならなかった」や「知らなかった」と答えた保護者の自由記述の中には、園として保護者に対応すべき課題を示しているものがある。まず、「発表などで接するのはいいが、病気の事などを考えると直接ふれあったりする事はさけて頂きたい（保育期間2年以上の3歳児保護者）」や、「子どもが嫌いな方もいる。“うるさい”と言われたら子どもはショックをうける（保育期間1年未満の1歳児保護者）」、「子どもに暴言を吐いて泣かせてしまうという事を聞いたことがある（保育期間4年以上の5歳児保護者）」というように、高齢者の健康や認知症のことを心配する意見が出されている。数年間子どもを預けている保護者でも心配を拭いきれていないことが示されていることは見逃せない。また、「核家族の我が家にとっては“みんなちがってみんないい”という受容的な心を育ててくれるのでは」と交流を期待している保護者でも、「高齢者の事情や身体的な差異を“汚い”とか“臭い”とか否定的にとらえてしまう場合もある（保育期間1年未満の1歳児保護者）」と、交流の逆効果を心配している。

このような否定的な見方や不安は一部の保護者だけの問題ではない。【表3：質問（8）の結果】に示したように、高齢者との交流への不安要因に関する質問において、16名（38%：複数選択可の質問のためにのべ数は18名）の保護者が何らかの不安を抱いており、中でも「認知症高齢者との交流」が一番高い割合を占めている。保護者の不安を軽減するためにも、職員側の十分な配慮と保育者にも保護者や子ども達に説明できるだけの高齢者に関する知識が求められていると言える。

次に、今後の高齢者との交流頻度に関する希望については、【表4：質問（7）の結果】に示したように、「日常的な交流」と「行事での交流」を合わ

【表3】高齢者との交流に関する不安

1. 保育者の負担の増加	5人
2. 保育時間の減少	1人
3. 高齢者の病気	5人
4. 認知症高齢者との交流	7人
5. 不安はあまりない	24人
6. その他	3人

【表4】交流頻度と内容の希望

1. 日常的な交流	6人
2. 行事での交流	12人
3. 現状維持	17人
4. 交流機会をなくす	0人
5. 分からない	2人
6. その他	2人

せると、今まで以上に充実させて欲しいという回答は18人（46%）であった。先述の保護者の交流への高い期待感の表われと言える。施設長らの話では、交流にあまり賛成していない保護者の意見を重く受け止める傾向が感じられた⁹⁾が、職員の知識向上を図り、保護者の不安解消に努める上で、交流を充実させて欲しいという意見が半数に上ったことは大きな支えになると考えられる。

2-2. 高齢者の意識

高齢者へのアンケートに関しては、質問項目の読解や回答の記入に家族の支援が必要な方も多いため、当初から低い回収率を見込んでいたが、23名（46%）と半数に満たないものであった。加えて、多くの高齢者が自由記述を記入していたが、その内容の殆どが基本的には交流に前向きな内容であり、交流に否定的な高齢者はアンケートに非協力的であったことも十分考えられる。そのため、保護者や職員へのアンケート以上に断定的な分析は避けなければならない。ただし、低い回収率の中でも特徴的な結果が見られたので、以下ではそれをまとめておく。

まず、今回のアンケートでは、今後の交流内容の方針を探る上で、年齢と介護度の項目を設け、高齢者の状況を踏まえた上での分析を試みた。介護度に関しては、交流活動形態・頻度への希望に特段の影響は見られなかったが、年齢に関しては、90代に特徴が見られた。【表5：質問（8）の結果】に示したように、交流頻度に関して、[毎回交流]や[行事の充実]を選択し、今よりも多く子どもと関わりたいという意向を有していたのは48%（11人）であるが、90代に限定すると、回答した10名の内、[毎回交流]が4名、[行事の充実]が3名で、70%（7名）であり、他の年代に比べて交流の充実を望む意向が強いと言える。

【表5】交流頻度に関する希望

1. 毎回交流したい	6人
2. 行事での交流充実	5人
3. 現状維持	12人
4. 交流したくない	0人
5. 分からない	0人
6. その他	0人

年齢が高い利用者がより交流を望んでいることをどう捉えるかは難しいところであるが、交流頻度増加を望む7名の90代利用者には、質問（5）の回答から、同居している小学校就学前の孫・ひ孫世代がない。従って、デイサービス以外での交流機会が少ないことが

一つの要因として考えられる。因みに、介護度による特段の差は見受けられないと先に述べたが、[毎日交流]を希望している90代の利用者で見ても、自由記述において、「ときどき子ども達と一緒に昼の食事をしたい」と述べている要介護1の利用者もいれば、「入浴時や、ちょっとした空き時間に交流があると良いと思う」という要介護4の利用者もいる。

以上のことから、交流を考える上で、介護度による活動内容への配慮は必要であるが、年齢や介護度による参加区分は適切でないと言えそうである。

次に、【表6：質問（9）の結果】に示したように、子どもとの交流をする場合、どのような形が良いかという質問に対しては、[施設が設定した活動と一緒に行く]参加型の交流が12名（52%）で最も割合が高いものの、[子どもが自然に周りにいるだけで良い]も10名（43%）いた。【表5】で示した交流頻度の希望においても、[現状維持]が12名と

【表6】子どもとの交流形態の希望

1. 施設が設定した活動	12人
2. 子どもが披露	8人
3. 子どもが周りにいるだけ	10人
4. 子どもに遊びの伝承	4人
5. 保護者世代とも交流	1人
6. その他	0人

約半数で一番高い割合であり、高齢者全員を対象に、一律に今以上の交流を行うことは必ずしも良い結果をもたらすとはいえない。そのことは、「私の方としては大いに助かるが、中には、煩わしがる人もいると思うので、その状況に応じて静かな場所を用意する事も必要かと」という90代の要介護4の利用者の自由記述にも表われている。また、「介護士さんをご苦勞なさる」と職員の負担を危惧する90代の要支援2の利用者もいる。限られたスペースと人員で希望制を取ることは容易ではないが、介護職員と保育者の連携により、交流時の役割分担がなされることが不可欠と言える。

最後に、【表6】に示したように、交流内容として[遊びの伝承]を希望する利用者が4名いた。少数の高齢者ではあるが、保育園には20代の若手保育者も多いことから、遊びの幅を広げる上でも、以前行われていたような園児がデイサービスを訪問する形態だけでなく、遊びを伝えてくれる高齢者を保育園に招待する等の交流形態も考えたいところである。このことは、交流を高齢者の癒しとだけ考えるのではなく、子どもや職員にとっても有意義なものとしていく⁽⁴⁾一つの方策と言える。

2-3. 職員の意識

職員へのアンケートではまず、これまでの交流活動の評価を通して、職員が感じている問題点が見えてくる。

【表7：質問（4-1）の結果】に示したように、高齢者との交流の幼児への効果について、[否定的]と評価したのは、理由未記入の保育者1名だけで、保育者・介護職員ともに10名中4名が[肯定的]と評価している。また、【表8：質問（4-2）の結果】に示したように、高齢者への効果についても、[否定的]という回答がない中で、保育者3名、介護職員8名が[肯定的]に評価しており、ある程度交流を肯定的に捉えていることが伺える。このことは、40代保育者の「子どもたちを見る眼差しがとても優しいのが印象的」や、20代介護職員Aの「落ち着きなく動いていた利用者が園児を見て、表情が明るくなり、優しい顔になっていた」というエピソード記述にも表われている。

しかし、評価未記入や、[どちらともいえない]と回答した職員も多くいる。どちらともいえないとした職員のエピソード記述には、20代介護職員Bの「園児はやらされているという感じ」や、20代介護職員Cの「認知症高齢者は、幼児から見たら恐怖」、30代保育者の「子ども自身も関わるのが難しいと感じているように見える。怖がっているような時もあった。高齢者は、ほとんどの方は喜んでいらっしやるようでしたが、中には子どもが苦手な方もいた」などが見られた。肯定的に評価できない原因として、保育者は高齢者を、介護職員は幼児を気遣う、交流相手側に迷惑をかけたくないという思いが伺える。

また、交流充実を望む30代保育者が、「交流を持たせてあげたいとは思いますが、利用者とのように接して良いのかが分からない」と自身の不安を述べ、後述するように交流方法の提案まで行っている20代介護職員Cが、「利用者が見学に行くことによる危険性等の話し合いが必要である」と述べているように、専門外の対象者と関わる難しさを感じている。

【表7】交流による幼児への影響

	保育者	介護職員
肯定的	4人	4人
否定的	1人	0人
どちらともいえない	3人	5人
未記入	2人	1人

【表8】交流による高齢者への影響

	保育者	介護職員
肯定的	3人	8人
否定的	0人	0人
どちらともいえない	4人	1人
未記入	3人	1人

以上のことから、交流活動を推進していく上で、職員の不安や躊躇いを解消するために、高齢者と幼児の交流以前に、職員間、介護職員と幼児、保育者と高齢者の交流機会を増やすことや、それに基づくマニュアル作りが求められていると言える。

次に、職員の意識から、今後の交流の方向性も見えてくる。20代介護職員Aの「保育園とデイサービスが併設という特色が生かせたら良いと思う」という自由記述も見られる一方、【表9：質問（5）の結果】に

示したように、日常的な交流活動の再開を望む職員は一人もいない。これは、【表10：質問（6）の結果】に示したように、交流減少要因として、11名の職員が挙げている「施設間の時間調整の難しさ」とともに、7名が選択して多数回答となっている「人手不足・多忙」という職員負担が背景にあると判断できる。従って、保護者や利用者からは日常的な交流を望む声もあるが、急に日常的な交流を再開することは職員の意欲に逆効果となりかねない。行事での交流の充実は一定の職員が意欲を持っていることから、先に述べた職員間の交流等を行った上で、行事での交流を充実させ、その後、行事以

外での交流に段階的に広げていくことが現実的と言える。なお、行事以外の交流では、負担が増えることを恐れながらも、20代介護職員Cが、高齢者が保育園を訪問する形態を提案している。‘ぬり絵’や‘軽度の運動’等日々決まった活動を繰り返す高齢者に葛藤を覚え、何かできないかと思っている若手介護職員のこのような意欲を今後も汲み取っていききたいところである。

【表9】今後の交流についての希望

	保育者	介護職員
1. 日課での時間の交流	0人	0人
2. 行事での交流充実	2人	6人
3. 現状維持	1人	2人
4. 減らして欲しい	0人	0人
5. 分からない	5人	1人
6. その他	2人	1人

【表10】交流活動の減少要因

	保育者	介護職員
1. 施設間の時間調整の難しさ	4人	7人
2. 人手不足・多忙	2人	5人
3. 保護者の要望	0人	0人
4. デイ利用者(家族)の要望	0人	0人
5. 職員の不安(関わり方等)	1人	0人
6. 園の方針と職員の消極的姿勢	0人	0人
7. 分からない	4人	2人
8. その他	1人	2人

ま と め

本稿では、交流計画等のソフト面での改善策を探る前提として、当事者・関係者が世代間交流をどのように捉えているのかをアンケート調査を通して明らかにし、今後の交流計画の方向性を示すことを目的としていた。

まず、保護者に関しては、期待が大きいものの、高齢者の病気や認知症などに不安を抱えている方が多くいる。次に、高齢者に関しては、年齢や介護度を交流活動の基準とすることや、全員を対象に交流を増やすことは、必ずしも適切ではないようである。最後に、職員に関しては、交流効果を概ね認めているが、専門外の相手側への迷惑や負担を心配している。

以上のことから、今後の方向性としてまず、現在はダイサービスの主任と保育園副園長との話し合いが中心となっている情報交換⁵⁾に多くの職員が参加できるようにし、職員間の連携を深め、特に保護者の不安を解消するための知識獲得を促すことが必要である。次に、日常交流を今すぐに再開することは、職員間の交流を行えば負担が増加する職員にとっても、無理強いされる一部高齢者にとっても望ましいものとは言えない。交流を伴う行事を増やすことや、希望する高齢者が保育園を訪問する、もしくは、遊びの伝承機会を持つことから交流の充実を図るのが良いと言える。

なお、前稿と本稿では、幼老合築施設‘みどの福祉会’を調査対象とした。今後も交流活動の推移や効果等を継続的に調査・研究していくが、合築・併設施設での交流には、施設の規模や地域性等の他、合築に至る経緯も影響していると考えられる。‘みどの福祉会’は、既存の保育園に高齢者ダイサービスセンターを増築する形で合築された施設であるが、【表9】に示したように、保育者よりも介護職員の方が交流に積極的である。そこで今後は、合築・併設で同時期に運営を開始した施設や、既存の高齢者施設に保育園が後から合築・併設された事例等も研究対象とすることで、合築・併設施設での世代間交流を充実させていく方策をより幅広く検証する。

脚 注

- (1) 拙稿「少子高齢社会における世代間交流の意義と課題－その①：幼老合築型施設‘みどりの福祉会’の取組の現状を通して－」『山形短期大学紀要』第40巻、79～97頁。
- (2) 本稿の内容は、2008年6月に同志社大学で行われた第22回地域福祉学会において口頭発表したものを、発表時に頂いた助言等に基づき整理したものである。なお、前稿では、本稿の課題として交流成果の客観的な測定も挙げていたが、交流活動が減少している中では十分な検証が行えないことから、本稿では交流活動の充実に向けた研究を優先した。
- (3) 丸茂園長兼施設長へのインタビューより。(2008年3月)
- (4) 土永典明他著「世代間交流に関する調査研究 - 高齢者福祉関係施設を併設している保育所の側面から - 」『九州保健福祉大学紀要研究』第6巻、2005年、30頁。
- (5) 前掲書。拙稿「少子高齢社会における世代間交流の意義と課題－その①：幼老合築型施設‘みどりの福祉会’の取組の現状を通して－」87頁。

参 考 資 料

【保護者用アンケート】

＜高齢者との交流に関するアンケート＞

以下の質問で当てはまる数字を丸で囲んで下さい。

※ 2人以上預けられている場合は、年上のお子様についてお答え下さい。

(1) お子様の年齢を教えてください。

1. 0歳 2. 1歳 3. 2歳 4. 3歳 5. 4歳 6. 5歳 7. 6歳

(2) 新町保育園にお子様を預けている期間を教えてください。

1. 0～11ヶ月 2. 1年～1年11ヶ月 3. 2年～2年11ヶ月

(9) 子どもとの交流をする場合、どのような形が良いですか。

1. 施設が設定した楽しめる活動と一緒にやる
2. 子どもが準備して披露してくれるものを見る
3. 子どもが自然に周りにいるだけで良い
4. 自分が知っている遊びなどを子どもに教えたり伝えたりしたい
5. 子どもだけでなく、その保護者世代とも関わりたい
6. その他 ()

(10) 保育園との交流に関してご意見・ご要望などがございましたら、ご自由にご記入下さい。

【職員用アンケート】

＜保育園とデイサービスセンターの交流に関するアンケート＞

以下の質問で当てはまる数字を丸で囲んで下さい。

(1) 所属を教えてください。

1. 保育園 2. デイサービスセンター

(2) 年齢を教えてください。

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代

(3) ご自身と祖父母の方との同居に関して教えてください。

1. 同居している 2. 同居したことがない 3. 以前は同居していた

(4) これまでの交流についての評価を教えてください。なお、お手数ですが、具体的なエ

ピソードやその理由について、下記枠内にご記入下さい。

- ☆ 幼児への影響 (肯定的・否定的・どちらともいえない)
- ☆ 高齢者への影響 (肯定的・否定的・どちらともいえない)
- ☆ 職員への影響 (肯定的・否定的・どちらともいえない)

<交流エピソードや理由>

(5) 今後の交流に関してご意見をお聞かせ下さい。なお、「4. 減らして欲しい」を選択された場合、その理由を教えてください。

1. 日々決まった時間の交流を持ちたい
2. 行事での交流の充実を図りたい
3. 現状のままで良い
4. 減らして欲しい 理由： {
5. 分からない
6. その他 ()

(6) ‘みどりの福祉会’での交流活動は減少傾向にあります。原因はどこにあると思いますか。(複数回答可)

1. デイサービスセンターと保育園の主な活動の時間が噛み合わないこと
2. 人手不足、各施設での仕事が多忙で交流まで手が回らないこと
3. 保育園の保護者の要望 (例：交流以外の活動優先を望む)
4. デイ利用者、もしくはその家族の要望 (例：子どもがわずらわしい)
5. 職員の不安 (例：保育士なので、高齢者との接し方に戸惑う)
6. 交流を減少させる園の方針と職員の交流への消極的姿勢
7. 分からない

8. その他（ ）

(7) 施設内の交流に関してご意見等ございましたら、自由にご記入下さい。

--

謝 辞

本稿においても前稿に引き続き、‘みどの福祉会’職員の方々には多大なご協力を頂いた。多忙な中、アンケート調査にご協力下さった関係者の皆様に、この場をかりて改めて御礼申し上げます。

